チーム嶋村
ガバナー月信

Take Action for Rotary Future. Reach Out for World Peace.

第１１号　２０２３年５月発行

親愛なる会長のみなさん

こんにちは

私たちの年度も残り 2 か月、4 月 14 日には栃木一夫ガバナー年度の地区研修協議会も無事に終わり、各クラブでも次年度体制の準備が進むと思います。とはいえ、会長のみなさんには、本年度の会長ターゲット、クラブ目標、ロータリー賞の実績入力を確認しながら、自身の会長年度をふり返っていただきたいです。最後まで元気なクラブづくりを目指して、一緒に走り抜けましょう！

１．アースデイ 2580（4 月 22 日）の活動はいかがでしたか？

他クラブと共同で開催するプロジェクトもあるようです（地区アースデイチームからの活動報告は 6 月号の予定です）。那覇南 RC では、4 月 10 日、珊瑚の植樹を友好クラブである札幌南 RC・高松南 RC・東京臨海西 RC と共同で実施しました。また、私の所属する東京東江戸川 RC は、親クラブである東京江戸川 RC と子クラブである東京江戸川中央 RC と合同で、アースデイ当日の 4 月 22 日にハナミズキの木を西一之江公園に植樹しました。この植樹は地元江戸川区と協議した成果です。このような共同での奉仕活動は、他のクラブのメンバーとの交流・親睦を深める機会にもなり、ロータリアンの成長につながります。本年度地区社会奉仕部門で推進してきた「参加型の奉仕活動」の実例そのものです。4 月がロータリーの環境月間になりましたので、次年度以降も、「環境保護のための参加型の奉仕活動」が活発になることを大いに期待しています。

２．ガバナー補佐担当グループでの合同例会が始まりました

3 月 15 日の多摩分区合同例会を皮切りに、4 月 13 日までに 6 グループの合同例会が開催されました（残り 7 グループ）。各ガバナー補佐が担当クラブの会長たちと協議し、さまざまなテーマを掲げて実施いただいております。出席いただいた会員のみなさんに感謝申し上げます。

合同例会の開催にあたり、私からは、①テーマを決めてクラブをミックスしたテーブルディスカッションの実施と、②新しい会員を紹介し、みなさんで讃えることをお願いしました。

うれしいことは、合同例会のテーマが多様なことです。「地域の防災対策」「会員増強」「職業倫理」「ロータリーの未来」「ロータリー財団と国際奉仕」などです。いろいろな視点からロータリアンの気付きや学びの機会を提供してくれています。本年度当初より「対話」の大切さを強調しています。テーブルディスカッションでは多くの気付きと学びとともに、交流・親睦の機会となっています。合同例会の出席者の気付きや学びをクラブ内で共有し、今後の元気なクラブづくりに活かしてほしいと願っています。

３－１．５月は青少年奉仕月間です

本年度の地区運営方針の 2 番目に、「未来を託す青少年奉仕活動の新しいクロスプロモーション事業をローターアクターと共に展開しましょう」と掲げました。インターアクトクラブとローターアクトクラブの交流会はさまざまな形で実施されています。3 月 21 日のインターアクトクラブとローターアクトクラブの合同清掃活動である「荒川クリーンエイド」では、ロータリーファミリーのみなさんと気持の良い汗をかきました。合同清掃活動後の交流会では、インターアクトクラブの卒業生がローターアクトクラブに入会するといううれしい報告もありました**（今月号に「青少年・ロータリーファミリー特集」があります）**。

インターアクトクラブ、ローターアクトクラブを提唱していないクラブの会長にも、会員のみなさんにお声をかけていただき、ぜひご一緒に参加してほしいです。これからでも参加できるプログラムは次のとおりです。

・5 月 7 日（日）　ローターアクト年次大会（タワーホール船堀）
・6 月 17 日（土）　沖縄青少年フォーラム（琉球大学）
・6 月 18 日（日）　青少年交換来日学生帰国前報告会（学士会館）
・6 月 25 日（日）　RYLA 報告会・RYLA 学友会設立総会（四谷・主婦会館プラザエフ）

３－２．青少年交換プログラムのジャパンツアー

青少年交換プログラムのジャパンツアー**（詳しくは地区青少年交換委員会からのレポート、インターアクターからの感想文にあります）**にインターアクターが参加するというクロスプロモーションを実施できました。3 月 29 日、私も広島で合流し、桜の咲く広島原爆ドーム前で集合した時、感動しました。

チーム嶋村　ガバナー月信

広島平和記念資料館を見学し、その夜に行われた「平和ディスカッション」では、青少年交換来日学生・派遣予定学生、インターアクター、ROTEX メンバーが「平和」について対話する姿は、私にとっての夢が実現した瞬間となりました。グループごとの発表では、相互理解、多様性、異文化交流などのキーワードが多く使われていました。その発表後に、私は「戦争・暴力の対義語はなんでしょうか？」と質問しました。「それは平和です」という答えもありましたが、私は「戦争・暴力と平和は対等ではなく、その対義語は対話です」と語りかけました。彼ら彼女らも対話の中に、他人への思いやりの心や他人の意見に耳を傾ける姿勢などを学んだことでしょう。

「平和ディスカッション」の最後に、私の尊敬する諏訪昭登第 2710 地区パストガバナーのメッセージを紹介しました。

若いみなさんへ

私は 12 歳の時、原爆の直接被爆者になりました。当時の状況は想像できない悲惨であり、まるでゴミクズのように死体が穴を掘った中へ投げ込まれ、焼かれた光景は生涯忘れられないことでした。国と国、また人と人が、なぜこんなように殺し合うのだろうか？　行きつく先は勝っても負けても、お互いに多大な被害を受けあって、非人道的な事態を味合うのです。今、私は自らの経験を語りながら、あのあまりにもむごたらしい戦争被害、特に非人道的な核兵器の禁止を、平和実現の前提として訴えます。そして、実際の状況を語れる人が高齢化して、余り居なくなった今、若い方々がそれを風化させることなく、世界的に語りついでいただきたいと願っています。人類永遠のテーマは、恒久平和です。手をたずさえてがんばりましょう。

ようこそ広島へ。

「平和都市広島」で実施したこのプロジェクトには、地区インターアクト委員会と地区青少年交換委員会にご協力いただきました。改めて感謝すると共に、私たちの未来であるロータリーファミリーのみなさんとの交流と対話の時間を今後も各クラブで、実践して欲しいと願っています。

Reach Out for World Peace　世界の平和ために手を差しのべよう

２０２３年５月１日

国際ロータリー第２５８０地区ガバナー　嶋村文男

※ガバナーへのメッセージをお待ちしています→　info@motoffice.jp

クラブ・ロータリアンからの活動報告：
ポーランドのロータリアンと連絡を取りウクライナ難民の支援
執筆：東京北 Exchange ロータリー衛星クラブ

東京北 Exchange ロータリー衛星クラブは、ROTEX のみで構成された珍しいクラブです。私たちは本年度、「Ukraine Kids Med Care」という奉仕活動に力を入れました。2022 年 2 月 24 日、ロシアとウクライナの戦争が始まり、ウクライナの多くの一般市民が被害を受け、近隣国へと逃れました。ポーランドへの難民の数はヨーロッパ諸国の中でも多く、医療品や食料、シェルターの不足などがあり、当時は避難先でも居心地良く過ごすことはまず難しい状況でした。そんな中で、ポーランドのヴロツワフ RC に所属し、大阪に派遣されたことのある ROTEX、ヘンリックさんと連絡を取り、現地の状況を伺いながら支援金の送付をまず実施しました。その後も連絡を取り続け、支援金だけではなく子どもたちの心のケアもできないかと新しくプロジェクトを開始しました。医療ケアの必要な子どもたちのあらゆる支援を現在も行っています。

2022 年 9 月、ヴロツワフに難民の子どもたちを招待し、前橋市の中学校の生徒たちからの手紙と千羽鶴をプレゼントするセレモニーを行いました。また、2022 年 12 月、その手紙を送ってくれた中学校をヘンリックさんと訪問し、平和についての講演を行いました。

本年度の私たちの活動は、平和をつくるための奉仕活動であったといえるでしょう。日本は平和ですが、反面、現実で悲惨なことが起きていることに気が付こうとしない人たちも多くいるようです。しかし、吸収力もあり、感受性も強い子どもたちに平和の大切さ、戦争の無惨さを伝えること、また平和実現のために他国の文化理解についての促進ができたことは、ロータリーの使命に基づいた活動であったと思います。次年度も引続き、ROTEX ならではのネットワークを通じ、意味ある活動を続けていけたらと思います。

チーム嶋村　ガバナー月信

パキスタン・イスラム共和国ポリオ NID に参加して
執筆：東京向島ロータリークラブ　小林康徳

2023 年 3 月 11 日から 15 日まで、チームポリオ JAPAN 第 2 班は第 2690 地区パストガバナーの松本祐二団長以下メンバー12 名で、パキスタンの NID（全国ワクチン投与日）に参加しました。ポリオ常在国はアフガニスタンとパキスタンの 2 か国となっています。パキスタンの人口は 2 億 2 千万人（世界第 5 位）、面積は日本の 2 倍です。

首都はイスラマバードですが、最大の都市であるアラビア海に面したシンド州の州都カラチが活動の場所となりました。アフガニスタンの国境近くは、タリバンと呼ばれる勢力が今でもテロ事件を起こしていますが、カラチは比較的安全なエリアで在留邦人数も 1 千人ほど、進出している日系企業も 80 社ほどあるようです。私たちは、地元の WHO 職員や、ポリオワーカーと呼ばれるワクチン投与活動を仕事にしている方々と共にワクチン投与活動を行いました。最初に訪れたのはハイウェイでした。商業や経済の中心であるカラチには、毎日、地方から大勢の方（アフガン難民も含め）がバスや鉄道を利用し入ってきます。そこで、ハイウェイに「ポリオ・ステーション」を設置し、カラチに入るバスをすべて停め、一台一台バスの中に乗り込み、子どもが乗っていないか確認しました。ワクチン未接種の子どもにはその場でワクチンを投与しました。私が訪れたポリオ・ステーションは 33 名のポリオワーカーが 365 日、2 交代 24 時間体制で活動していました、真夜中や明け方に通過するバスもかなりあるようです。この場所一つで、1 か月に 7 万人、多い月には 10 万人の子どもにワクチンを投与しています、こうしたポリオ・ステーションがカラチには 8 か所もあるそうです、次に訪れた場所は、鉄道の駅でした。先程のハイウェイと同じように、駅に停まっている列車に乗り込み、子どもの確認と未接種の子どもに投与を行います。列車をホームで待つ人々についても同様です。ポリオワーカーも 20 名くらいで、毎日、始発から終電まで、駅で活動をされていました。その後は、気温 40 度の中（夏場は 50 から 60 度になるらしいです）、一軒一軒、戸別訪問を行いました。一番大事な活動です。戸別訪問といっても、家というよりは簡易テントに近い感じです、テレビの報道番組などで観る難民キャンプです。一軒一軒、訪ねて行き、投与活動した情報（子どもの数や訪ねた時には居なかったなど）は、住民台帳のようなものもない（当然、地図もありません）ので、テントの外壁というか、覆ってある布にチョークで書きます。雨が年に 15 日くらいしか降らないので、チョークでも消えることは無いそうですが、布を張り替えると分からなくなるそうです。毎日、時々刻々と人が流れてきて勝手に住み着いてしまうので、一見非効率に思えるこの活動はとても大事です。

ポリオワーカーは、毎日、パキスタン全土で 25 万人から 30 万人が活動しております。ポリオワーカーにはワクチンの温度管理などのいろいろな教育の訓練を受けて、初めてなることができます。1 か月の給料は日本円で 15,000 円くらいとのことです。パキスタンには子どもが 4000 万人から 5000 万人いるといわれています。ポリオワーカーの毎日の地道な活動に心より感謝を申し上げます。

チーム嶋村　ガバナー月信

地区委員会からの報告
青少年交換プログラムのジャパンツアー　～インターアクターとも交流、対話～
執筆：地区青少年交換委員会　委員長　飯塚憲貴

ジャパンツアーを、2019 年以来 4 年ぶりに開催しました。当地区の来日学生、派遣予定学生にとっては、西日本を体験する機会があまりないため、春休みの期間を活かして、8 泊 9 日で西日本をめぐるバスツアーです。本年度は、3 月 26 日早朝に新宿を発ち、奈良、京都、鳥取、出雲、広島、徳島、大阪、伊勢、名古屋、河口湖と巡り、4 月 3 日に戻ってきました。西日本を代表する史跡や歴史的建造物を実際に目で見ることにより、青少年交換学生たちは素晴らしい経験ができました。3 月 30 日の出雲大社参拝においては、出雲中央 RC の紹介で大社 RC の会長・幹事が当日合流、ご案内していただきました。

広島においては、当地区のインターアクターと現地で合流し、広島平和記念資料館を見学、夕食後、平和ディスカッションというクロスプロモーションを実現しました。これは、嶋村文男ガバナーの夢でもありました。実施にあたり課題もありましたが、次年度以降も続けていけるよう委員会で話し合おうと思います。

最終日は河口湖において、現地の第 2620 地区の ROTEX と合流、第 2620 地区の企画で交流という、良い経験をさせていただきました。

ジャパンツアーは日本を学ぶことも目的ですが、実は隠れた目的もあります。来日学生と派遣予定学生がより交流を行い、来日学生は日本語で、派遣予定学生は英語で、コミュニケーションがとれるようになることです。引っ込み思案、人見知り、語学力不足、そんな言い訳は派遣先の国ではできませんし、通用しません。言い訳する必要のない力をジャパンツアーで身に付けることができるのです。本年度の青少年交換学生も、その成果をたいへん大きく得ることができました。

来日学生の帰国、そして派遣予定学生の出国まであと数か月となりました。それまでは短いですが劇的に成長する期間でもあります。6 月 18 日、学士会館にて帰国前報告会が開催されます。そこで、成果をお伝えできると思います。ぜひみなさまのご参加、またはご支援をお待ちしております。

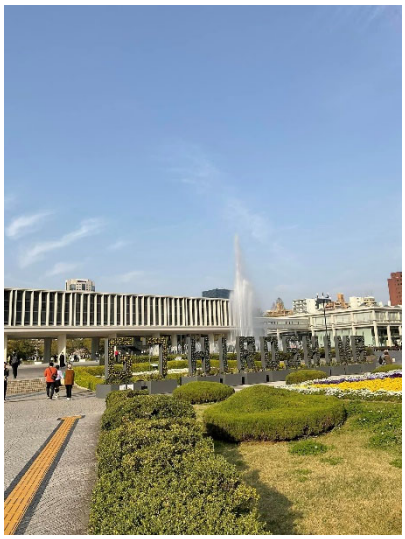
ジャパンツアーに合流したインターアクターからの感想文
取りまとめ：地区インターアクト委員会、インターアクトクラブ顧問教師

3 月 29 日、広島にて、当地区のインターアクターがジャパンツアーに合流しました。青少年交換学生とともに、広島平和記念資料館の見学を行った後、「平和ディスカッション」を行いました。9 名のインターアクター（東京北部 4 名、沖縄分区 5 名）から感想文をいただきましたので掲載します。「Rotary Future」と「World Peace」を感じさせる内容になっています。

なお、翌日 30 日は、厳島神社で学業成就を祈念し、広島の牡蠣や穴子料理を満喫したとのことです。

チーム嶋村　ガバナー月信

那覇高等学校 IAC　SM さん：



今回初めて広島を訪れて、短い期間でしたがとても良い経験ができました。広島平和記念資料館では、核兵器が落とされたことで熱線、暴風、放射線による建造物や人体への被害を知りました。以前、長崎原爆資料館を訪れたことがありますが、そこよりも鮮明に描かれた怪我や病気に関する絵や写真などの資料が展示されていました。自分より小さな子たちが全身に火傷を負っていたり、被曝から助かったとしても年月を経て放射線に起因する癌や白血病に罹るなどして若くして亡くなってしまったことを知り、改めて戦争の恐ろしさ、核兵器について考えさせられました。平和ディスカッションで、平和について意見を交換したのですが、カナダからの来日学生は「Patient」と言っていました。日本語にすると我慢することでより平和になるということです。日本語ではどちらかというとネガティブワードですが、カナダではポジティブワードなのだそうです。外国の方とこのようにして関わるのは初めてだったので、言葉の捉え方や考え方の違いが新鮮でとても面白かったです。今までは戦争の対義語は平和だと安易に考えていました。改めて考えてみると、安心して生活が送れないなどさまざまな理由で戦争がなかったとしても平和にはなりません。戦争という方法で解決するのではなく対話という方法で解決するという意味で「戦争の対義語は対話」という言葉がとても印象に残りました。この素晴らしい経験を沖縄に帰っても忘れず、将来に活かしていきたいと思います。

関東第一高等学校 IAC　FR さん：

ジャパンツアーはさまざまなことが得られる 2 日間でした。小学生のころに戦争についてとても興味を持ったことがあり、その時から広島平和記念資料館に行きたいと思っていました。今回行くことができてとても嬉しかったです。展示されていた体験談を読んでいると、自分がその人になったかのように心が痛くなりました。青少年交換留学生との平和ディスカッションではお互いの意見を否定せずに行いました。来日学生を置いてきぼりにしないよう簡単な日本語でお話ししたり、来日学生が日本語で言えないことを派遣予定学生が通訳してくれて、思いやりの心に溢れていました。居心地良く、みなでいろいろな意見を交換することができました。「戦争が無くなれば平和なのか？」という問いがあったのですが、戦争がない状態が社会主義である可能性もあり、戦争が無くなれば良いという考えは安直であると気付きました。また、生まれも育ちも海外で同年代の人とお話しするのは初めての体験でドキドキしながらも、海外の人の視点のお話しを聴くことができて、とても価値のある時間となりまた。この体験から海外の人も戦争に対しては日本人と気持ちは同じこと、お話し合いがどんな争いにも有効なこと、そのためにはお互いを知り理解しようとすることが重要であることを認識することができました。ジャパンツアーを通した交流を継続して行きたいです。

那覇高等学校 IAC　NR さん：

今回初めて広島を訪れてみて印象に残ったことは、沖縄では見たことのないような桜や歴史的な建物などの美しい景色があらゆるところに広がっていて、どこに行っても綺麗で感動したことと、今の広島の平和な情景からは考えられないような残酷な歴史を過去に抱えているという事実を、自分の目で確かめ

チーム嶋村　ガバナー月信

られて実感できたことです。広島平和記念資料館で当時の写真や展示物を見た時は、沖縄平和記念資料館や長崎原爆資料館とは異なり、死体や怪我をした人の生々しい写真や核兵器の爆発によってできた実際の人影の展示があって、その場にいるだけで目を塞ぎたくなるような資料ばかりでした。資料館を出た後はどっと疲れてなんとも言えない感情になり、私も友だちもしばらく口を開けることができないでいました。しかし、過去の広島の凄惨な歴史を知ることができたことで、戦争や核兵器が残酷で非人道的なものだということを改めて実感できました。さらに、その後の青少年交換留学生との交流の機会でもそれぞれが感じたことやこれからの平和などについて意見交換を行い、自分とは異なった考え方や面白い意見を持つ人などがたくさんいました。戦争や平和などのテーマは国や言語が異なっていても、世界の一人ひとりが永遠に考え続けていかないといけないテーマです。今回の経験がこれからの自分の人生や考え方の糧になるように、忘れることなく周りの人に伝え、風化させないようにしたいです。今回このような機会を設けてくださったロータリアンのみなさんにはとても感謝しています。短い 2 日間でしたが、とてもたくさん学べ、充実した時間にすることができました。ありがとうございました。

潤徳女子高等学校 IAC　KA さん：

広島平和記念資料館では思わず目を背けたくなるような多くの展示を見て、学校での授業だけでは学べない戦争の悲惨さや当時の人々の思いを感じ、戦争を知らない私たちは実際に見て学ぶべきだと思いました。資料館内には外国人観光客も多く、音声ガイドなどを利用しながら一つ一つ展示物横の解説を読んだりしている姿や資料館内の廊下に座って思いを巡らせている姿がとても印象に残っています。展示物を眺め、資料を読み、資料館から出るときには心から「平和」を求めている自分に気付きました。多くの犠牲の上に今の平和な日本があるということを実感したと同時に、この先この事実を私たちが伝え続けていく責任があると思いました。平和ディスカッションでは青少年交換留学生や他校のインターアクターとの交流を通じて大きく二つのことが印象に残っています。一つ目は「核兵器って持つべき？」というテーマについてです。私たちのグループではこの問いについて、迷わず「NO!」という答えが出ました。ですが、なぜ NO といえるのかを問われたときに明確な理由がなかったため、私たちは悩みました。悩んでみんなで話し合った結果、「核兵器は戦争のためでしかない」というシンプルだけど私たちのグループにとってはそれこそが本質だと思う答えを出すことができました。普段過ごしている環境やそれぞれの価値観が異なる私たちが一つの「平和」というテーマについて話し合った時間は私にとって非常に意義のある貴重な経験になりました。二つ目は平和学習とは関係のないことですが来日学生と会話したことです。平和ディスカッション後のグループごとの発表の時に、私は来日学生とペアになりました。グループでのお話し合いの時は派遣予定学生に通訳してもらいながらだったのでスムーズに行えたのですが、ペアで分かれたときには会話が難しく最初は焦りました。私は簡単な英語で、来日学生は簡単な日本語でなんとかお互いに発表を成功させようとがんばりました。私は普段英語を話す環境にいないのでなかなかハードルが高かったのですが、来日学生と英語でコミュニケーションをとれたときには初めて英語の面白さを感じ、もっと英語を学びたいと思うきっかけになりました。この広島での 2 日間で私の中のいろいろな価値観や物事への考え方は大きく変わりました。私たちはできることはみな

チーム嶋村　ガバナー月信

異なる、だからこそ協力し合うことが大切なのだと強く思います。今の私にできることは世界や日本の現状を正しく知り、多方面から社会の問題について考えを深めていくことだと思います。素敵な機会を設けてくださったすべての人と出会いに感謝したいです。

興南高等学校 IAC　AK さん：

ジャパンツアーで一番印象に残ったことは、広島平和記念資料館を訪れたことです。核爆弾には生き延びた人々の身体や精神にまで影響を及ぼすほどの力があることです。核爆弾のせいで物凄い火傷を負った人々はケロイドという皮膚にみみず腫れのような赤い皮膚の盛り上がりができ、放置すると大きく跡になったり、引き攣りや痛み、かゆみにずっと悩まされることになります。それを治すために手術を何回もすることになります。母親の胎内で被曝した子どもは頭が小さいことを特徴とする原爆小頭症になり、脳や身体に障害を負って生まれてきます。他にも被爆により精神崩壊した父によって家族までもが崩壊する例や、核爆弾による放射線により被爆から 15 年経った男性の視力が無くなったという例もありました。一瞬にしてたくさんの人の命を奪うだけでなくその何十年経った後でも被爆者の身体に影響を及ぼす核爆弾はやはり無くなって欲しいと思います。私は、沖縄のインターアクターとしてジャパンツアーに行き、たくさんの学びがありました。

関東第一高等学校 IAC　OY さん：

ジャパンツアーに参加して、新たな知識が増えたり、さまざまな人たちと交流が深められたり、たくさんのことが得られました。平和についていくつかのテーマに分けて青少年交換留学生や私たちインターアクターが一緒に自分の意見をお話し共有できたことを嬉しく思います。意見を交換していくうちにお互いに考えが違うところもあれば共通しているところもあり、その内容を再確認しながらまとめることができました。それぞれのグループの発表を聴いてみて、さらにたくさんの意見があることを知りました。物事を考えるときは視野を広くするなど、意見を言うとき、聴くときに大切なことがいろいろ見付かりました。また、意見を交換し合うことはとても重要であるとわかりました。ジャパンツアーは自分にとってとても良い経験になりました。次回もジャパンツアーに参加したいです。

興南高等学校 IAC　KY さん：

初日に訪れた原爆ドームや広島平和記念公園では、原爆の惨劇に言葉にならないぐらい大きなショックを受けました。沖縄は第二次世界大戦で激しい地上戦が繰り広げられたため、私にとって「戦争」や「平和」というワードは身近であり、幼い頃から平和教育を受けてきたので、戦争に関することは知っていると思っていました。しかし、広島平和記念公園を訪れて、恥ずかしながら初めて知ることもありました。原子爆弾により熱線と爆風で一瞬にして無差別に多くの命が失われた当時の様子がそのまま伝わる写真に胸が締め付けらました。原爆は投下されたその時から今でも被害が起きています、後遺症に苦しんでいる方々がいて、永遠に癒えない傷になっています。原爆の脅威を身に持って感じ、核問題について深く考えることができました。平和ディスカッションでは、平和な世界にするために「戦争の悲惨さを学ぶ・考える・話し合う・発信すること」、「互いを思いやり、理解と尊重の気持ちを持つこと」が重要だと話し合いました。フランスの来日学生、韓国とアメリカにルーツを持つ子、沖縄と東京のインターアクターとそれぞれ異なる環境の 4 人でディスカッションを行いました。さまざまな意見、価値観があり、発見

が多く勉強になりました。他人事ではなく自分事として捉え、もっと原爆、平和について勉強していきたいと思いました。一泊二日と短い期間でしたが、沖縄と東京のインターアクターはじめ、青少年交換留学生とも交流ができ楽しい研修になりました。初めてのメンバーで緊張もしましたが、協調性、自主性を持って行動することができ、自分自身の成長の場にもなりました。ジャパンツアーで学んだことを活かし、社会の課題、問題に目を向け積極的に行動できる人になりたいです。

潤徳女子高等学校 IAC　MS さん：

私の広島平和学習はとても有意義でした。なぜなら、平和学習を通して普段できないような貴重な体験をたくさんすることができたからです。広島では、人々の優しさも感じることができました。平和学習では、広島平和記念資料館へ行き、資料や写真を見て戦争の残酷さが良く分かりました。他校のインターアクターや青少年交換留学生と戦争について意見交換を行い、発表しました。さまざまな意見を共有し、新しい価値観を身に着けることができました。今回の平和学習を通して、平和は「戦争がない」だけでなく、一人ひとりが自分の中の「平和」を理解して行動に移すことが大切なのではないかと考えました。また、平和ディスカッションを共にしたグループの仲間との絆をより一層深めることができました。私にとって今回の広島での 2 日間は私の意識を大きく変える経験になりました。

昭和薬科大学付属高校 IAC　KM さん：

今回のジャパンツアーで初めて広島に行きました。「原爆ドームを見てみたい」という浅はかな考えしか持っていなかったのですが、広島平和記念資料館の展示を見て自分の認識の甘さに気付かされました。被爆者や遺族の生々しい現実がひしひしと伝わってきました。実際に体験した人の感覚は完全には分からないだろうと思いますが、分からないなりに起こったことを事実として知り、周りの人に伝え、二度と同じようなことが起きないように行動することはできます。がんばりたいです。平和ディスカッションでは同年代の平和に関する意見を聴くことができました。私よりもずっとしっかりした意見を持っていて不甲斐なさを感じました。これからは、常日頃から平和や戦争について考えようと思います。ジャパンツアーでは他校のインターアクターや青少年交換留学生とたくさんお話しができました。とても良い経験になりました。反省点も含め今回の経験を今後に活かしていきたいです。とても素晴らしい機会を与えてくださって、ありがとうございました。

チーム嶋村　ガバナー月信

特集！　青少年・ロータリーファミリー　～ロータリーへの思い～

5月は「青少年奉仕月間」です。せっかくの機会ですので、当地区につながる青少年とロータリーファミリーを誌面にてご紹介します。ロータリーの未来を担う青少年・ロータリーファミリーそれぞれの「ロータリーへの思い」、「将来行いたい奉仕活動」などに触れていただければと存じます。

次の青少年・ロータリーファミリーの方々に質問をさせていただき、回答を得ました。

１．東京女子学院中学校高等学校インターアクトクラブ（P.11）
　　なお、インターアクターのみ未成年者への配慮から、クラブの奉仕活動の報告となっています。
２．ライラリアン　吉澤侑志さん（P.12）
３．ROTEX委員長　久保田京花さん（P.13）
４．青少年交換学友　宮本晴代さん（P.14）
５．東京葛飾中央ローターアクトクラブ　会長　國枝さちさん（P.15）
６．ロータリーフェローズ東京　幹事　山本修聖さん（ロータリー財団奨学生学友）（P.16）
７．ロータリー平和フェロー　AZMINA KARIM（アズミナ・カリーム）さん（P.17）
８．米山奨学生　李淳楠さん（P.18）

また、各人に行った質問は次のとおりです。

Q1：プロフィール
Q2：青少年奉仕プログラム／ロータリーファミリーのきっかけは？
Q3：お世話になっている／なっていたロータリアンはどのような人ですか？
Q4：今後行いたいことや奉仕活動はありますでしょうか？
Q5：ロータリーへコメントをいただけますでしょうか？

お取次ぎをいただきましたロータリアンのみなさま、たいへんお忙しいところ快くご協力をいただき、誠にありがとうございました。

１．ひとさし指のノクターン♪　東京女子学院中学校高等学校インターアクトクラブ

提唱クラブである東京ワセダロータリークラブの会員からお声がけいただき、人生初の「だれでもピアノ」に出会いました。このピアノはメロディにペダルと伴奏が追従するように特別に開発されたものです。特別支援学校を卒業した演者のみなさんが「ひとさし指」1本だけで旋律を弾くと、それに合わせて伴奏が追従し、あたかも一人で弾いているかのような素晴らしい演奏が完成します。私たちは受付や案内、観客参加の時間には鈴やタンバリンなどを会場内のみなさんにお配りするなどのお手伝いに携わらせていただきました。会場が一つになって演奏を楽しむ、感動に包まれた体験となりました（2022年8月11日実施）。

チーム嶋村　ガバナー月信

２．ライラリアン　吉澤侑志さん

Q1：プロフィールを教えていただけますか？

練馬区出身で、東京大学経済学部 3 年に所属しています。教育や発展途上国の経済状況などに関心があります。現在は「はじまりの場所」という小中学生の居場所づくりボランティア団体の学生代表を務めています。

Q2：RYLA セミナーを受講したきっかけは？

RYLAセミナーの存在を知ったのは私が所属するボランティア団体経由で、平素からお世話になっております東京練馬西ロータリークラブの会員からお話しをいただいたことがきっかけでした。リーダーシップとはどういったものなのかを体感するため、そして仲間たちから刺激をもらうために参加させていただきました。セミナーを修了して、たくさんの仲間に出会えたこと、発表を通して自分が成長したことを実感し、参加できたことにたいへん感謝しています。

Q3:お世話をしたロータリアンはどのような人でしたでしょうか？

お世話していただいたロータリアンのみなさんはプログラム参加者に親身になってお話しを聴いてくださり、一緒に過ごしていて楽しい素敵な方々でした。経営者ならではの苦労や今の私自身の不安などについてたくさんお話ししてくださいました。保護者であり仲間であるような大好きな人生の先輩方です。

Q4:今後行いたいことや奉仕活動はありますでしょうか？

今現在参加している地域の小中学生の居場所づくり以外にも、日本にとどまらず途上国の教育環境の改善に少しでも貢献したいと強く思っています。RYLA セミナーの初日に聞いた東京東江戸川ロータリークラブのミャンマー小学校建設プロジェクトのお話しにたいへん感銘を受けたとともに、自分もこういった活動ができる人間になりたいと思いました。

Q5:ロータリーへコメントいただけますでしょうか？

本業のお仕事もこなしながらも、ロータリーの奉仕精神によりさまざまな活動を支援し、また実際に活動をしているロータリアンのみなさまの存在は地域社会において非常に大切であると感じます。私含めその活動に助けられている人々がたくさんいらっしゃることも身に染みて実感しています。そのような活動を続けてくださっていることに感謝の念に堪えません。

チーム嶋村　ガバナー月信

３．ROTEX 委員長　久保田京花さん

Q1：プロフィール

ロータリー青少年交換プログラムを通じて、2018-19 年度、ブラジルのサンパウロに派遣されていました。現在、慶應義塾大学の法学部政治学科に通っており、移民難民について扱う研究会に所属しています。

Q2：青少年交換派遣学生、そして ROTEX 委員長となったきっかけは？

中学 2 年生の時に青少年交換プログラムで日本に来ていたフランス人来日学生のホストファミリーをしたことが、このプログラムを知るきっかけでした。それまでは、自分が留学に行くなんて考えたこともなかったため、両親から「受けてみたら？」という言葉をかけられて初めて、「海外でホームステイしながら 1 年間過ごす」ということについて考えました。当時、私の将来の夢が飛行機の客室乗務員であったということもあり、異文化交流という趣旨に惹かれ、思い切って応募しました。

ロータリーでは海外で 1 年間過ごす機会を与えてくださっただけでなく、普通の中学生・高校生ではできない貴重な経験を山ほどさせてもらいました。自分を成長させてくれたロータリーには感謝してもしきれないという思いがあり、ROTEX としてプログラムに献身し恩返しをしようと考えたのはごく自然なことでした。自分が派遣学生の時代にお世話をしてくださった先輩 ROTEX のみなさんに憧れていて、自分も先輩のようになりたいという気持ちもありました。こういった思いや、学部や学年の忙しさなどの適性も考慮し、同期で話し合った結果、ROTEX 委員長として選出されました。

Q3：お世話したロータリアンはどのような人でしたでしょうか？

青少年交換プログラムに携わっているロータリアンは、温かい方ばかりです。いつでも私たちのことを気にかけてくださり、派遣学生のころも、ROTEX として活動している今も、ロータリアンからかけてくださる言葉に救われてばかりです。第 2580 地区のロータリアンだけでなく、私が派遣されたブラジルの現地ロータリアンも同じでした。ROTEX になってからのほうがよりロータリアンと関わる機会が多く、派遣学生・来日学生をサポートする過程でうまく行かないことや悩み事があると真摯に相談に乗ってくださいます。

Q4：今後行いたいことや奉仕活動はありますでしょうか？

私は、移民の支援をしたいと思っています。青少年交換プログラムでブラジルに留学したことで、移民問題に対して興味を持ち、大学に進学した後、移民問題について扱う研究会に所属しています。自分自身が外国にルーツを持っており、以前はそのことを後ろめたく思っていましたが、移民大国のブラジルで 1 年間生活したことで考えが大きく変わりました。現在の日本では外国人労働者が増えており、今後は移民二世・三世の子どもたちが増えていくと考えています。そのような子どもたちが日本で心地良く生活し成長できるような支援を行っていきたいです。

チーム嶋村　ガバナー月信

Q5：ロータリーへコメントいただけますでしょうか？

私は、青少年交換プログラムを通じてブラジルで１年間過ごしたことにより、語学が上達したり、新しいことに挑戦する癖がついたり、自分と異なる価値観を受け入れられるようになりました。それだけでなく、帰国から４年たった今でもブラジル留学から学ぶこと、新たに発見することが多々あります。また、ROTEX 委員長に就任以降はさまざまな仕事を任せていただきました。悩みながらも、派遣学生、来日学生たちが異文化交流をし、より充実したものとなるように試行錯誤してきました。派遣学生のころも ROTEX の現在も、普通の中学生・高校生・大学生ではなかなかできないような機会をロータリーは与えてくれます。一つ一つの経験が糧になっていると感じますし、自分の成長はロータリーのおかげであると確信しています。ロータリーにお世話になって 6 年目になります。青少年交換プログラムに携わってくださったロータリアンには感謝してもしきれません。

４．青少年交換学友　宮本晴代さん

Q1：簡単なプロフィール

TBS テレビ報道局政治部記者を勤めています。また、第 2580 地区危機管理委員会の委員でもあります。1999-2000 年度、東京東村山 RC のスポンサーのもと青少年交換プログラムでハンガリーに派遣されました。その後、上智大学を卒業し、2005 年に TBS テレビ入社して以来、報道畑を歩んでいます。2017 年から 2021 年まで米国ニューヨーク支局に駐在し、国際連合の取材等を担当しました。

Q2：青少年交換派遣学生となったきっかけは？

青少年交換プログラムとの出会いは、中学に遡ります。中学３年生の時、そのまま一貫の高校に進むか悩んでいました。外に出て、もっと広い世界を見たいと考えていたからです。そんな時、当時高校で教えていた阿部美枝子先生が「うちの高校に進んで、これを受けてみたら」と勧めて下さったのが青少年交換プログラムでした。学生募集のポスターを見た時の胸の高鳴りは、今でも忘れられません。

Q3：お世話したロータリアンはどのような人でしたでしょうか？

私が派遣されたのは、ハンガリー東部でウクライナ国境に近く、アジア人が来るのは初めてという小さな町でした。最初のホストファミリーがロータリアンで町の副町長さんでした。受入れロータリークラブが、地元の名物料理「グヤーシュ（牛肉を煮込んだスープ）」を野外で調理するイベントを開くなど、ハンガリーの文化や歴史に触れる機会をたくさん作ってくれました。ほとんど英語が通じない小さな町でしたが、まるで親戚のようにあたたかく私を迎え入れてくれました。また、私が茶道のお点前を披露する機会も作ってもらいました。いまからすれば、外国から 16 歳の派遣学生を預かるというのはたいへんなことだったと思いますが、奉仕の精神があればこそだと感謝しています。

チーム嶋村　ガバナー月信

Q4：今後行いたいことや奉仕活動はありますでしょうか？

派遣から 23 年が過ぎ、今は報道を通じて社会に貢献したいと思いながら日々仕事をしております。同時に、ニューヨーク駐在時代に国連の取材を通じてさまざまな形の国際貢献を見たこともあり、今後はまた別の形で、紛争地や途上国の現場の支援ができないかと考えています。また、私自身が青少年交換プログラムに育てていただいたことから、若者の教育には大きな関心を持っています。いつか、子どもたちのための図書館をデザインし、設立するのが夢です。

Q5：ロータリーへコメントいただけますでしょうか？

ロータリーの数あるプログラムの中でも、青少年交換は、さまざまな面で神経を使う、たいへんなものだと思います。私は青少年交換のおかげで、生き方が決定付けられ、その後、世界各国の人々と関わる中でも、ロータリーで学んだ奉仕の精神が生きていると感じます。「小さな親善大使」を送り出し続けている、この素晴らしいプログラムに関わって下さったすべてのロータリアンに感謝を申し上げます。

５．東京葛飾中央ローターアクトクラブ　会長　國枝さちさん

Q1：プロフィール

大学 3 年生です。年齢は 20 歳です。法学部法学科で刑法と民事訴訟法を主に学んでいます。最近の趣味はライブに行くことです。いろいろなアーティストのフェスやライブに行っています。

Q2：RAC に入会したきっかけは？

18 歳の時、東京葛飾中央 RC 会長の米山真吾さんのところにインターンシップでお世話になりました。その時に RAC 設立を考えているので入らないかと誘われて入会しました。当時はロータリークラブのことを何も知らず、面白そうという理由だけで入会しました。

Q3：お世話になっているロータリアンはどのような人たちですか？

私のお世話になっているロータリアンは、困っているときは手を差し伸べていただき、アドバイスもいただき、温かくクラブを見守ってくださるとても信頼できる方々です。私の中でロータリアンとはまだまだ他人行儀なところがあるので、冗談が言い合えるくらい仲良くなっていきたいと思っています。

Q4：今後行いたいことや奉仕活動はありますでしょうか？

今後行いたいことは他 RAC との合同例会を増やして行きたいです。RAC の会長幹事のことは知っていても他の RAC 会員のことを知らない方がたくさんいます。その方たちのことを知っていけたらと思っています。奉仕活動は今行なっている子ども食堂のボランティア活動を継続して行なっていきたいです。

チーム嶋村　ガバナー月信

Q5：ロータリーへコメントいただけますでしょうか？

いつも私たちローターアクトのことを見守っていただきありがとうございます。まだまだ未熟なところがありますがこれからもご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いします。

６．ロータリーフェローズ東京　幹事　山本修聖さん（ロータリー財団奨学生学友）

Q1：プロフィール

私は、東京で育ちました。日本文化が好きで、日本が大好きです。この大好きな日本を海外の方に伝えたく、ロータリー財団奨学金を得て、海外の大学に進学し、卒業しました。日本に帰国してから、東京大学の公共政策大学院に進学し、卒業しました。現在は、外資系金融機関の東京支店で仕事をしております。金融機関では倫理観が非常に重要です。ロータリーの理念の一つである高い倫理基準を持って仕事に取り組んでおります。

Q2：ロータリー財団奨学金のきっかけは？

高校 3 年生の時、大学は海外の大学で学びたいと思い、ロータリー財団奨学金に応募しました。海外の大学を選んだのは、留学することにより、日本のことを客観的に捉えることができると思ったからです。また、日本の大学より猛勉強することになり自分が成長できるとも思ったからです。ロータリー財団奨学金を選んだのは、偉大な先輩方がこの奨学金で海外留学し結果を出している、名誉ある奨学金だからです。

Q3：お世話をしたロータリアンはどのような人でしたでしょうか？

日本では、東京練馬中央ロータリークラブの堀部さんと渡邊さんにお世話になりました。堀部さんからは、留学中日本食が食べられない私に即席麺などの食料を大量に送ってくださり、生活の面で大きくサポートしていただきました。渡邊さんとは定期的にメールのやり取りをさせていただき、近況報告させていただきました。重ねて、当地区ガバナー事務所の安井さんには手続きや事務的なことで大きくサポートいただきました。みなさま本当に親切で、快くサポートしていただきました。感謝してもしきれません。

最初の留学先のカナダでは、トロント市のロータリアンである、ジャンさんとスコットさんにお世話になりました。次の留学先のオランダでは、アムステルダム市のロータリアンである、コックスさんにお世話になりました。どちらの国でも、空港まで、ロータリアンが迎えに来てくださり、大学の学生寮まで送ってくださいました。週末はご自宅に招いてくださり、食事を共にさせていただき、たくさんのことをお話しができました。私が日本に帰国してからも交流が続いています。現地で出会ったロータリアンは全員私の恩人だと思っております。どちらの国でも、その地区のロータリークラブの活動をお手伝いすることができました。例えば、クラブの例会では、毎回日本についてスピーチをしました。とてもやりがいがありましたし、パブリックディプロマシーを通じて日本との友好を促進させられたことを誇りに思ってい

ます。

Q4：今後行いたいことや奉仕活動はありますでしょうか？

日本人学生の海外留学を支援する活動をもっと PR して、活発化させ、ロータリーの存在感を日本の中で、もっともっと高めていきたいと思います。企業の CSR 活動と連動して、ロータリーの奉仕活動の規模拡大や社会的認知が高められるような取組みを模索したいです。ロータリーフェローズ東京の幹事として、ロータリー財団奨学生学友の横のつながりをさらに強化できるよう取り組んでいきたいです。

Q5：ロータリーへコメントいただけますでしょうか？

私は、ロータリー財団奨学金があったからこそ今があると思っております。ロータリー財団奨学金での留学は、勉学のみならず、人間的な成長も期待できます。現地のロータリアンとの交流や活動を通じて社会貢献をしながら、奉仕の重要性を認識しました。これから留学される方は、ぜひ留学を通じてロータリーの素晴らしさを体験して欲しいと思っております。ロータリーを通じての留学は、生涯のつながりを築くことができると思っております。

７．ロータリー平和フェロー　AZMINA KARIM（アズミナ・カリーム）さん

Q1：プロフィール

私はバングラディッシュ人です。コスタリカにある平和大学を卒業後、バングラディッシュとインドネシアで、ロヒンギャの人権問題に関わってきました。いろいろな国際団体で、難民に対する教育の確保や女性の権利付与が主な仕事です。最近は 2017 年より国連難民高等弁務官事務所で、難民や亡命希望者の保護や女子教育のための世界基金の管理等も行いました。そのころに、日本に来たこともありました。

同期の平和フェローと地区平和フェローシップ委員会のみなさん。左から 2 人目がアズミナさん

Q2：平和フェローシッププログラムのきっかけは？

平和フェローシッププログラムへの応募と来日のきっかけは、ロヒンギャ難民への最大の支援国である日本の外交政策と世界平和構築への貢献を知りたいと思ったことです。

Q3：お世話をしたロータリアンはどのような人でしたでしょうか？

私を送り出してくれた、第 3282 地区のサゴリカ RC のみなさま、今私を受け入れてくれているホストクラブ、東京新都心 RC の佐々木さん、栂野さん、地区平和フェローシップ委員会委員長の川松さんにもお世話になっています。

チーム嶋村　ガバナー月信

Q4：今後行いたいことや奉仕活動はありますでしょうか？

今、日本では、ハチノコグループと言う高齢者支援のボランティアで、高齢者向けに英語を教えるボランティアは続けています。将来は、バングラディッシュのチッタゴン郊外に学校を建設し、教育に対する格差が無くなることを夢見ています。

Q5：ロータリーへコメントいただけますでしょうか？

私を日本に招いていただいてありがとうございます。今は、日本のいろいろな文化を体験しています。国際基督教大学で学んだことを将来世界の平和構築へつなげたいと思っています。

８．米山奨学生　李淳楠さん

Q1：プロフィール

私は東京大学学際情報学府の博士課程に在籍しており、日本の室町時代の文化史について研究しています。学部時代に同済大学（中国）で日本語日本文学を専攻し、東京大学での修士論文では、室町期の東寺文化圏と妖怪絵巻の関係について研究してきました。出身地は中国上海ですが、10 歳以前には、上海の近くでも大陸から離れている田んぼが広く、人が少ない島の崇明島で祖父母と暮らしていました。

私が好きな言葉は、孟子の「窮則独善其身、達則兼善天下」（窮すれば即ち其の身を善くし、達すれば即ち兼ねて天下を善くす）です。これは、まず自分自身を良くして、自己の能力や立場を最大限に生かして、余裕がある時には自分の身の回りから良くするという意味が込められていると思います。私は自分を磨きながら、他人を手伝える人間にもなりたいです。

Q2：米山奨学生となったきっかけは？

私が米山奨学生となったきっかけは、学業を続けながら自立するために奨学金を探していた時、ロータリー米山記念奨学金の募集要項を見付けたことです。その要項を読んで、求められる奨学生の資質が自分の目標と深く共鳴するものだと感じ、ぜひ申請してみたいと思ったことが動機です。求められる奨学生の質性の一つの「異文化理解」は、私が日本の文化史を研究する初志です。

日本のアニメに夢中になっていた子どもの頃、日本人と結婚した従姉が中国の蘇州で開いた日本料理屋で初めて日本料理を食べさせてもらいました。そこで、簡単な日本語も教えてもらい、同じ漢字を使って、発音が似ているところもあるし、全く異なる読み方もあることを知りました。近似点と相違点の両方があることが、私にとって非常に魅力的でした。そして、日本語や日本料理に対して興味を持ち、日本語をしっかり勉強したいと思うようになり、大学で日本語と日本文学を専攻するようになりました。

チーム嶋村　ガバナー月信

Q3：お世話をしたロータリアンはどのような人でしたでしょうか？

カウンセラーは、東京浅草ロータリークラブの田原績さんです。田原さんは旗屋を経営しています。ユーモアがあり懐が深く親しみやすい人です。いつも田原さんとの交流から、学ぶことが多くあります。例えば、卓話をする前に田原さんから「失敗を怖がらなくて良いよ。失敗からは何かを学べるからね」という言葉をいただき、人生での失敗や挫折に対する恐怖心が軽減され、「とりあえずやってみよう」という前向きな姿勢が心に深く刻まれました。そのほか、東京浅草ロータリークラブのニコニコ委員会で読み上げを担当しながら、みなさんとたくさんお話しできました。また、毎回お会いした際に手を振ると、みなさんが親切に振り返してくださることは、ロータリーソングの歌詞にあるように「遠いときには　手を振り合おうよ　それでこそロータリー」と感じました。また、俳句を作ることが好きだとお話ししたら、東京浅草ロータリークラブの俳句同好会の方々と熱く俳句のお話しをすることができました。いろいろな交流を通じて、たくさんのことを学ぶことができました。「亦師亦友」という中国語には、先生でありながら友人であるという意味があります。私にとって、東京浅草ロータリークラブのみなさんは、人生の先生であると同時に優しい友人でもあります。

Q4：今後行いたいことや奉仕活動はありますでしょうか？

まず、子どもへの奉仕活動を行いたいです。ロータリーの奉仕活動から「子ども食堂」、「ロータリー希望の風奨学金」、そして「ポリオワクチン」などを知りました。私は、学部時代に、中国の農村部の小学校でボランティア教師に参加したこともあります。今、あらためて、何か子どもたちの役に立てる手助けをすることができたら嬉しいと思っています。

また、女性の成長と教育にも関心があります。中国の農村部では、女性より男性が優先される慣習が残っています。女性が学校を辞めて、兄弟に学校へ行く機会を譲ることが少なくないです。

Q5：ロータリーへコメントいただけますでしょうか？

ロータリアンのみなさん、ありがとうございます。面接を受けた時、嶋村文男ガバナーに「これからも純粋に生きてください」と言われて、心に響いています。ロータリアンのみなさんのように、自らの仕事をちゃんとして、他人を助けながら、仲間と一緒に世の中を良くしていきたいです。

チーム嶋村　ガバナー月信

入会者情報　～クラブにおける会員増強のためのヒント・アイデアを提供します～

１．情報収集の時期

2023 年 3 月 15 日から 2023 年 4 月 15 日まで（なお、入会日は 3 月 1 日から 4 月 13 日まで）

２．入会者数（任意の提供ですので、実際の人数とは合致していないと存じます）

11 名

３．入会者の年齢層（小数点第 2 位切捨て）

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
人数	0	0	3	3	4	1
割合	0%	0%	27.2%	27.2%	36.3%	9.0%

※最年少 44 歳、最年長 71 歳

４．入会者の性別（小数点第 2 位切捨て）

	男性	女性
人数	10	1
割合	90.9%	9.0%

５．職業

弁護士（3 名）、貿易、食品流通業、建築業（2 名）、証券業、不動産管理、公認心理師、飲食業

６．紹介者との関係

取引先・仕事関係（同じ国際的異業種交流会に所属）、東京青年会議所の後輩、大学同級生、他クラブ会員紹介・オープン例会参加者、再入会、職場の後任（2 名）、商工会議所の異業種交流会で出会った（2 名）、紹介会員の同業者（2 名）

７．クラブ別の入会者数（クラブ名、一部省略）

東京西北（1 名）、東京神田（3 名）、東京麹町（1 名）、東京新都心（1 名）、東京ワセダ（1 名）、東京江戸川中央（2 名）、東京福生（2 名）、以上 7 クラブから回答

８．特記事項

今回の情報収集によると、入会者の職業として「弁護士」が 3 名になりました。1 月号の「2022-23 年度上半期の入会者情報のまとめ」でもコメントしましたが、入会者の多い職業の第 2 位は弁護士（5 名）でした。

今回の情報収集までの通算ですと 9 名になります。弁護士の入会者の情報をまとめますと、年齢は 30 代：2 名、40 代：5 名、60 代：2 名、性別は全員男性となっています。紹介者としては、「取引先」（3 名）が一番多く、その他、「大学の同窓であり OB 会 10 年以上交流（JC に 4 年間所属）」「町内会関係」「同じ法人会に所属」「東京青年会議所の後輩」「オープン例会参加者」となっています。

ご協力いただきましたクラブのみなさま、入会者情報をご提供いただき、誠にありがとうございました。

チーム嶋村　ガバナー月信

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

ロータリー財団マルチプル･ポール･ハリス･フェロー

3 回	鈴木　祥太（東京ワセダ）	新城　恵子（浦添）
1 回	石浦　勇人（東京西北） 渡邉　康平（東京西北） 梅村　吉博（東京ワセダ） 平元　忠（東京ワセダ）	神山　和郎（東京西北） 小関　智宏（東京西北） 豊田　雅司（東京ワセダ）

ロータリー財団ポール･ハリス･フェロー

	澤本　尚志（東京西北） 平良　友美（浦添）	武井　涼子（東京ワセダ）

米山功労者・メジャードナー

54 回	加藤　義朋（東京）
22 回	桑原　忠夫（東京葛飾中央）
21 回	金田　康男（東京紀尾井町）
11 回	土居　岩生（東京お茶の水）

米山功労者・マルチプル

3 回	原田　毅（東京浅草中央）	
2 回	高橋　雅美（東京練馬中央）	宮﨑　茂夫（東京武蔵村山）

米山功労者

	立野　秀一（東京浅草中央） 吉沼　隆秀（東洋浅草中央） 宮崎　守弘（東京浅草中央） 髙木　祐輔（東京浅草中央） 内田　力（東京浅草中央）	後上　清（東京浅草中央） 河村　英朗（東京浅草中央） 太田　冨美夫（東京浅草中央 浜中　清（東京浅草中央）

3 月 31 日分まで　敬称略、順不同

編集：　国際ロータリー第２５８０地区　ガバナー月信編集委員会
ガバナー月信へのお問い合わせ／コメント：　info@motoffice.jp

チーム嶋村　ガバナー月信